



令和2年4月3日	
所 属	尼崎市消防局情報指令課
所属長	前田 高広
電 話	06-6481-3968

令和元年火災・救急・救助統計（概要版）について

1 趣旨

尼崎市において、火災予防や救急車の適正利用を促すため、令和元年中に発生した火災、救急、救助に関する統計を広く周知します。

2 対象期間

平成31年1月1日（火）～令和元年12月31日（火）

3 各統計における項目

(1) 火災統計

火災の発生状況、出火件数、焼損床面積及び損害額、火災件数の推移、出火原因、住宅火災の出火原因

(2) 救急統計

過去10年間の救急出動件数の推移、程度別、年齢区分別、事故種別

(3) 救助統計

救助隊配置体制、救助工作車配置体制、出動件数、室内閉じ込め救助件数

4 その他

令和元年火災・救急・救助統計の詳細については別添のとおり

以 上

令和元年火災統計（概要版）

火災の発生状況

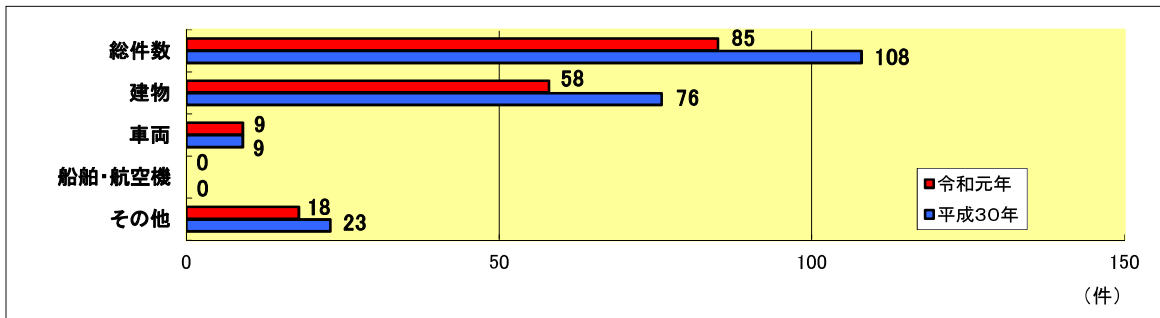
- 令和元年中の火災件数は85件で、焼損床面積は1,533㎡、損害額は1億2,761万9千円、死者3名、負傷者22名となりました。

令和元年	
件数	85件
焼損床面積	1,533㎡
損害額	1億2,761万9千円
死者	3名
負傷者	22名

平成30年	
件数	108件
焼損床面積	1,269㎡
損害額	1億2,275万4千円
死者	8名
負傷者	22名

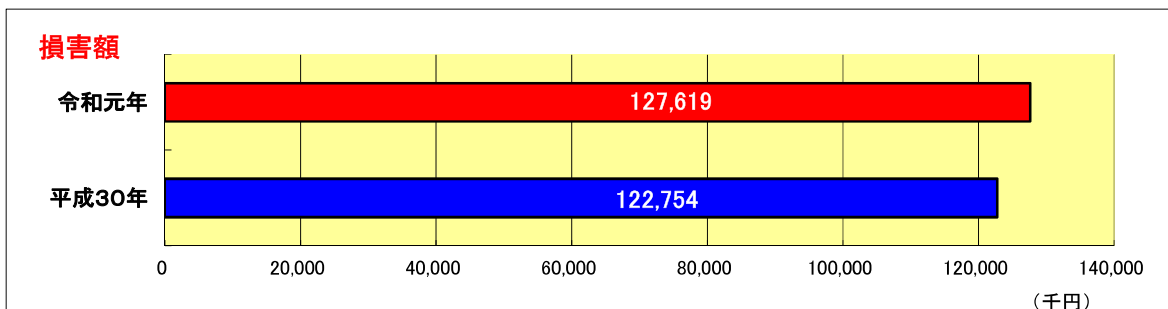
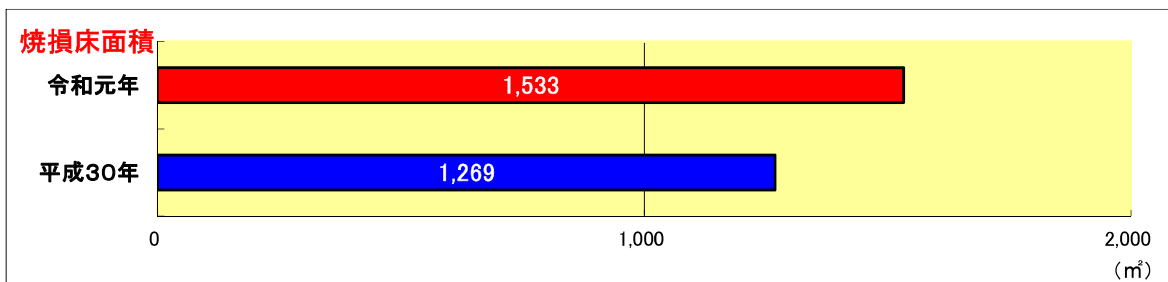
出火件数

- 出火件数は、前年の108件から23件減少し、85件となりました。
- 火災種別ごとでは「建物火災」が58件で18件減少、「車両火災」が9件で前年と同数、「船舶火災」、「航空機火災」は共に0件で、「その他火災」が18件で5件減少しました。



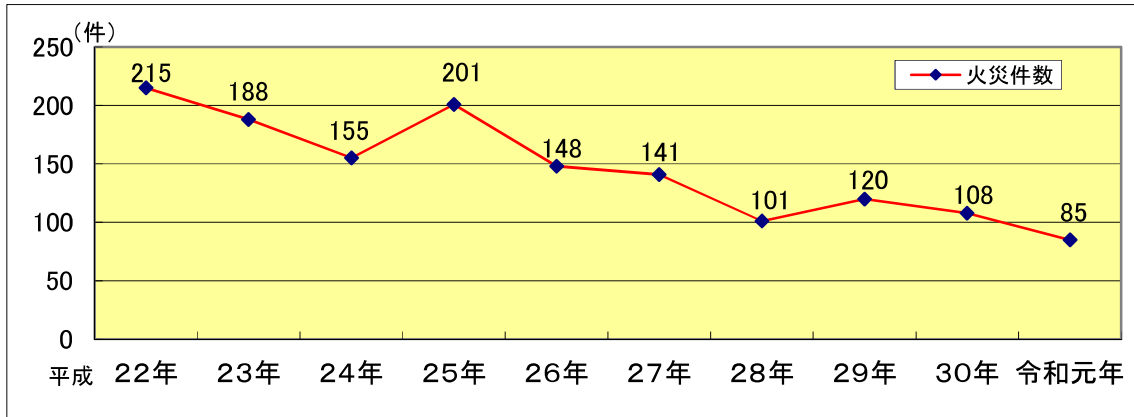
焼損床面積及び損害額

- 焼損床面積は、前年の1,269㎡から264㎡増加の1,533㎡、損害額は前年の1億2,275万4千円から486万5千円増加の1億2,761万9千円となりました。



火災件数の推移

- 令和元年は85件で、前年より23件の減少となりました。
- 平成22年からの過去10年間の平均は146.2件です。

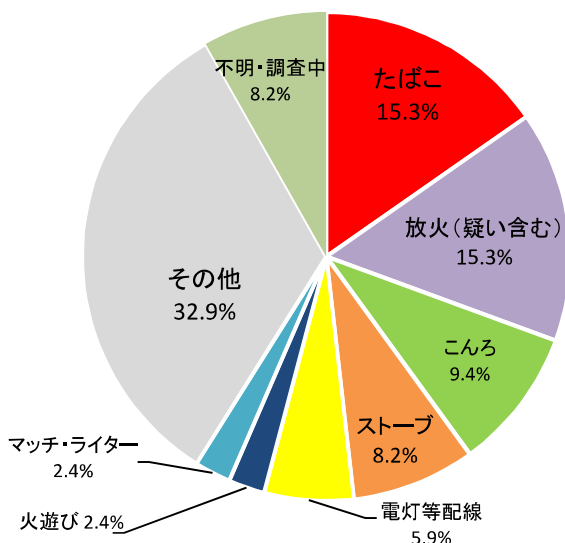


出火原因

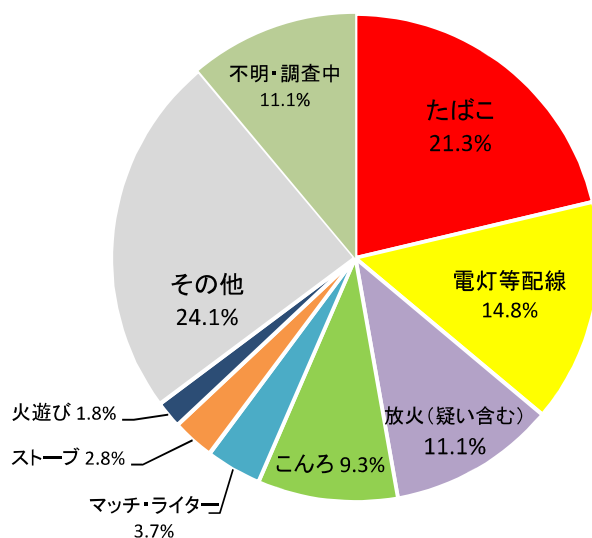
- 主な出火原因をみると、1位は「たばこ」と「放火（疑い含む）」が同数となっています。「たばこ」は13件となり10件の減少、「放火（疑い含む）」は13件で1件の増加となっています。3位は「こんろ」で8件となり2件の減少となっています。
- 各出火原因の全体に占める割合は、上位から「たばこ」、「放火（疑い含む）」及び「こんろ」となり、件数は34件で割合は、40.0%となっています。

区分	令和元年	平成30年
たばこ	13件	23件
放火(疑い含む)	13件	12件
こんろ	8件	10件
ストーブ	7件	3件
電灯等配線	5件	16件
マッチ・ライター	2件	4件
火遊び	2件	2件
その他	28件	26件
不明・調査中	7件	12件
合計	85件	108件

令和元年



平成30年



※四捨五入しており、100%にならない場合があります。

住宅火災の出火原因

- 住宅やアパート・マンションなど住宅火災全体の件数は30件で、前年の47件から17件の減少となっています。
- 令和元年の総火災件数85件に占める住宅火災の割合は、35.3%となっています。
- 住宅火災における出火原因の主なものとして、「たばこ」、「ストーブ」、「こんろ」となり、その原因の住宅火災全体を占める割合は63.3%となっています。

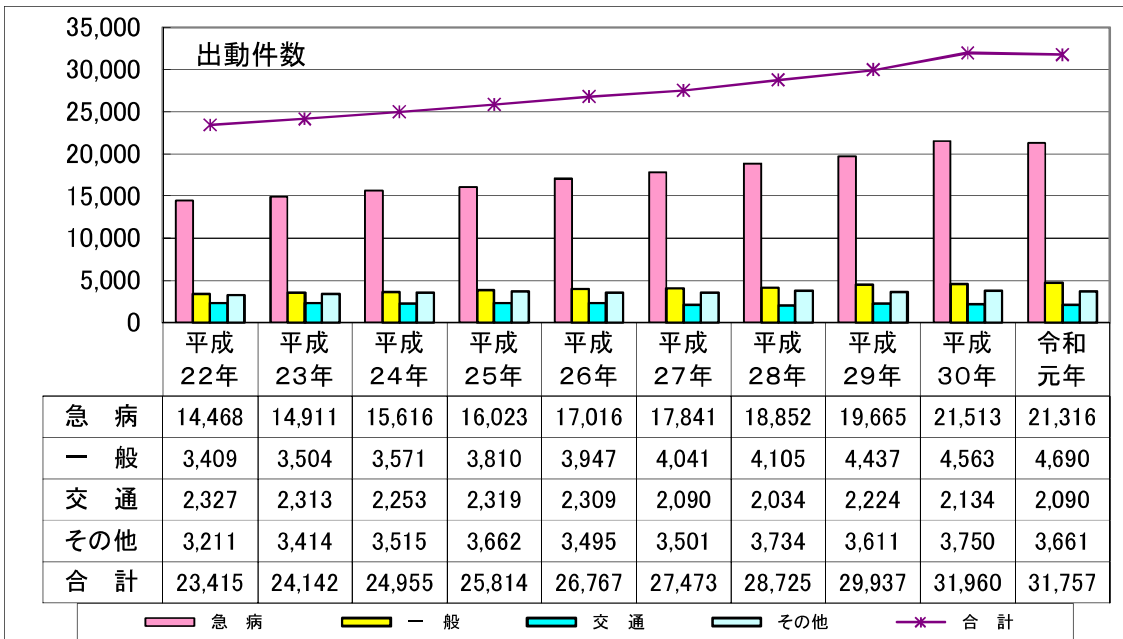
建物別	年別	計	放火（疑い含む）	たばこ	こんろ	火遊び	マッチ・ライター	ストーブ	電灯等配線	その他	不明・調査中
一般住宅	令和元年	16	1	6	3			3	1	2	
	平成30年	19	2	4	4			2	2	1	4
共同住宅	令和元年	14		2	2			3	1	4	2
	平成30年	25	3	6	5		2		4	3	2
併用住宅	令和元年										
	平成30年	3						1	1	1	
合計	令和元年	30	1	8	5	0	0	6	2	6	2
	平成30年	47	5	10	9	0	2	3	7	5	6

令和元年救急統計（概要版）

- 令和元年中における救急出動件数は31,757件で、前年比203件（0.6%）の減少となり、搬送人員は27,701人で、前年比285人（1.0%）の減少となっています。
1日平均は87件（前年88件）であり、約17分に1件の割合で救急隊が出動したことになります。

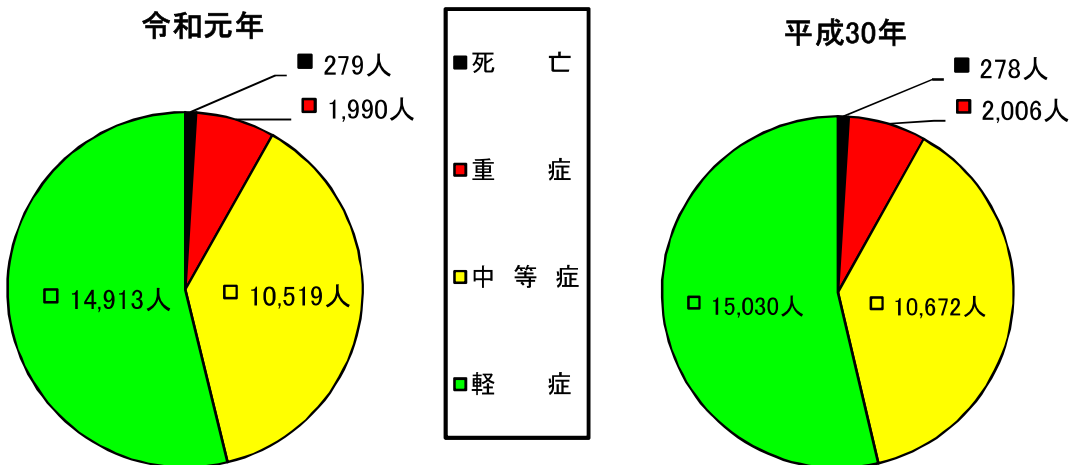
過去10年間の救急出動件数の推移

- 過去10年間の救急出動件数をみると、平成30年まで9年連続で増加していたが、令和元年は減少に転じ、過去最多となった昨年より203件の減少となります。



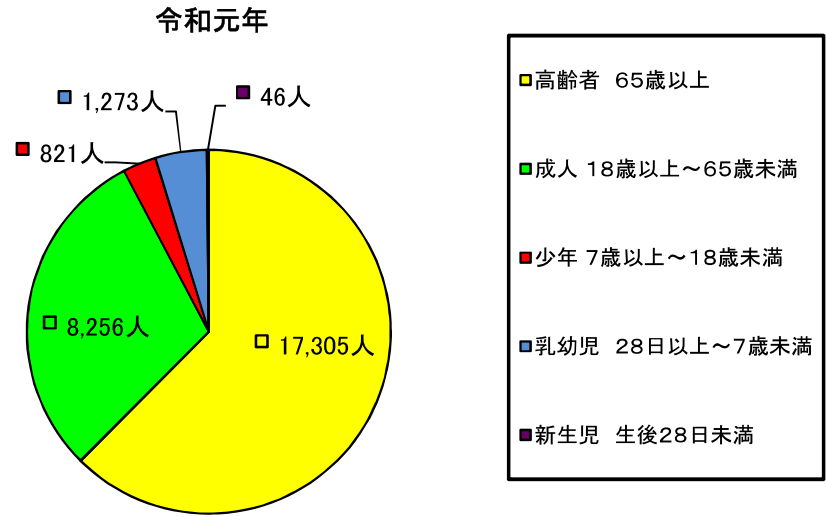
程度別

- 程度別にみると、軽症14,913人（前年15,030人）で117人（0.8%）の減少、中等症10,519人（前年10,672人）で153人（1.4%）の減少、重症1,990人（前年2,006人）で16人（0.8%）の減少、死亡279人（前年278人）で1人（0.4%）の増加となります。



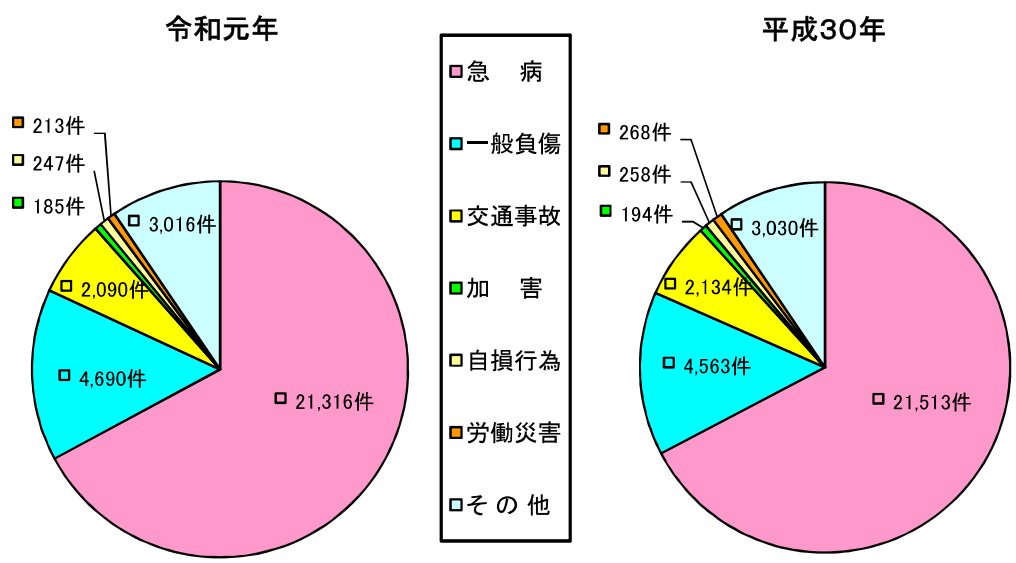
年齢区分別

- 年齢区分別にみると、高齢者が17,305人で最も多く、全体の62.5%で、以下、成人、乳幼児、少年、新生児の順となっています。



事故種別

- 事故種別でみると、急病が最も多く全体の67.1%で、以下、一般負傷、交通事故の順となっています。



令和元年救助統計(概要版)

- 本市の救助体制は、高度救助隊1隊、特別救助隊1隊、署救助隊2隊、水難救助隊1隊で計5隊の救助隊を配置しています。
- 救助工作車は2台を有し、市域の南部に1台、北部に1台を配置し、あらゆる災害における救助体制の拡充、強化を図っています。
- 令和元年の出動件数は500件（前年587件）で、出動隊数は842隊（前年1,014隊）となっており、種別ではその他の事故を除き、建物等による事故が最も多くなっています。
- 近年では、室内閉じ込め救助が増加しています。この室内閉じ込め救助とは、何らかの理由により、自力でドアを開けて外に出られなくなった又は室内に人がいると思われるが、安否の確認が出来ない状態のことであり、救助出動件数500件のうち307件（61.4%）がこの室内閉じ込め救助出動となっています。

